

平成29年4月12日

(問い合わせ先)  
〒514-8570 三重県津市広明町13番地  
三重県戦略企画部企画課  
(担当)：南、北川  
Tel059-224-2025 fax059-224-2069  
e-mail : [kikakuk@pref.mie.jp](mailto:kikakuk@pref.mie.jp)

## 第6回みえ県民意識調査の集計結果 ～県民の皆さんの幸福実感を調査しました～

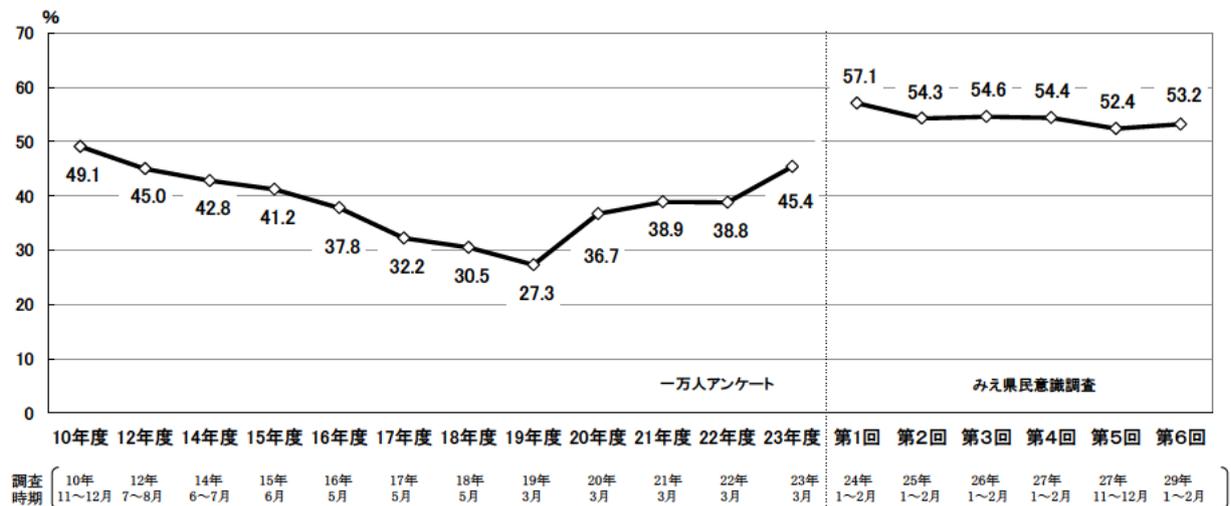
県では、「みえ県民カビジョン」において、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げており、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、一万人の県民の皆さんを対象に毎年「みえ県民意識調査」を実施しています。

今回、平成29年1月から2月にかけて実施した「第6回みえ県民意識調査」の集計結果がまとまりましたので、お知らせします。

### 調査の概要

- 1 調査期間 平成29年1月～2月
- 2 調査方法 県内に居住する18歳以上の10,000人に対する郵送アンケート
- 3 有効回答数 5,317人(有効回答率 53.2%)

図表1 有効回答率の推移



### 4 調査項目

- ・ 幸福感
- ・ 地域や社会の状況についての実感
- ・ ご家族に関すること
- ・ 働き方に関すること
- ・ 情報の入手に関すること
- ・ 動物愛護に関すること

# 集計結果（概要）

## 1 幸福感

報告書 5～7頁

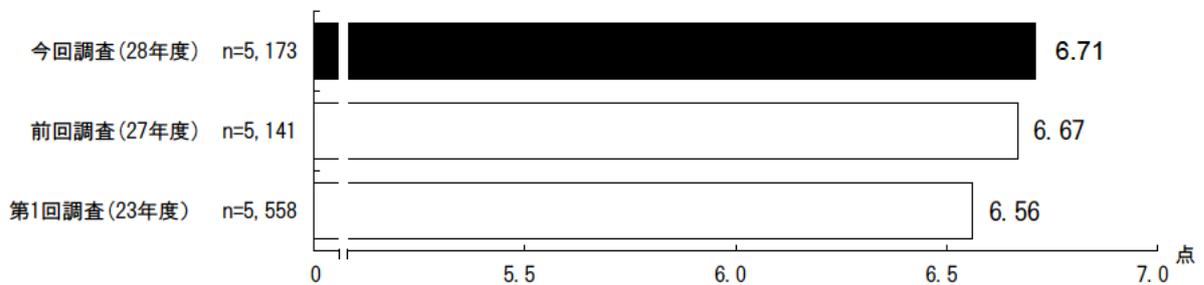
### (1) 日ごろ感じている幸福感

現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

※第1回調査から継続して質問しています

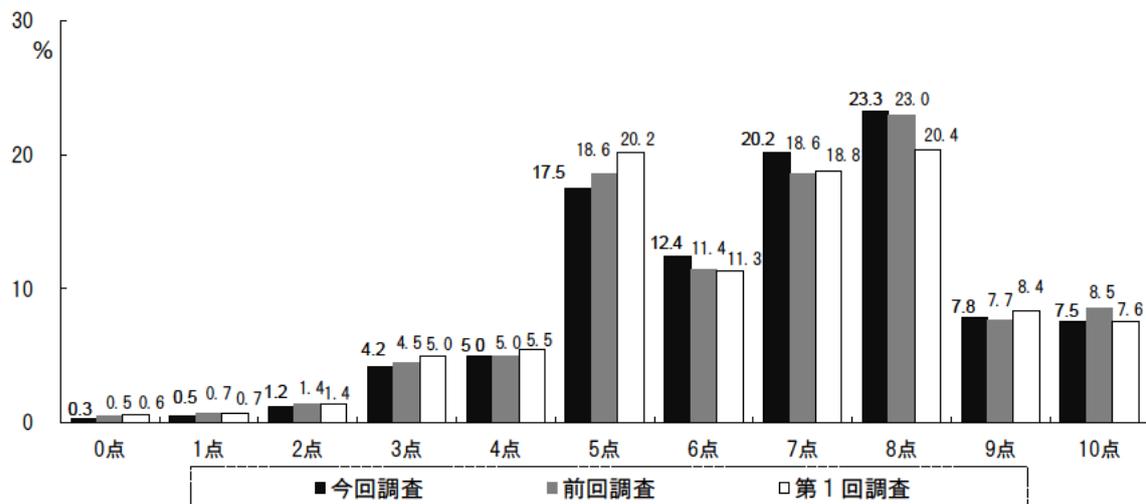
県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、平均値は6.71点で、第1回調査より0.15点、前回調査より0.04点それぞれ高くなっています。点数の分布をみると、「8点」の割合が23.3%と最も高く、次いで「7点」が20.2%と「5点」が17.5%となっており、M字型となっています。

図表2 日ごろ感じている幸福感の平均値

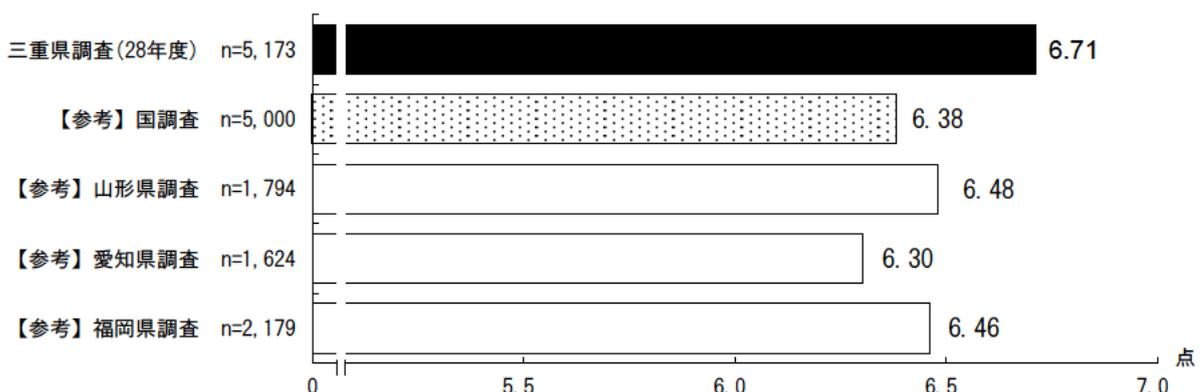


※ これまでの調査で幸福感が最も高かったのは第3回調査の6.75点で、今回調査は過去2番目の高さとなっています。

図表3 日ごろ感じている幸福感の分布



図表4 (参考)国及び他県における類似の調査結果(「幸福感」を10点満点で尋ねる調査)



図表5 日ごろ感じている幸福感の平均値(属性項目別)

	今回 点	(前回差) ポイント	<第1回差> ポイント
合計	6.71	(0.04)	<0.15>
<b>地域</b>			
北勢	6.81	(0.05)	<0.17>
伊賀	6.61	(0.13)	<0.10>
中南勢	6.69	(0.04)	<0.15>
伊勢志摩	6.64	(0.02)	<0.23>
東紀州	6.36	(-0.12)	<-0.11>
<b>性別</b>			
男性	6.58	(0.16)	<0.26>
女性	6.85	(-0.01)	<0.05>
<b>年齢</b>			
18歳から20歳代	6.69	(-)	<->
30歳代	6.91	(0.13)	<0.06>
40歳代	6.87	(0.09)	<0.30>
50歳代	6.71	(0.08)	<0.21>
60歳代	6.71	(0.02)	<0.22>
70歳以上	6.55	(-0.05)	<0.00>
<b>主な職業</b>			
農林水産業	6.48	(0.27)	<-0.02>
自営業・自由業	6.93	(0.26)	<0.28>
正規職員	6.86	(0.01)	<0.17>
パート・アルバイト・派遣	6.64	(0.15)	<0.25>
その他の職業	6.62	(0.27)	<-0.05>
学生	6.97	(-0.27)	<0.39>
専業主婦・主夫	7.03	(-0.19)	<-0.01>
無職	6.41	(0.07)	<0.18>
<b>配偶関係</b>			
未婚	6.03	(0.19)	<0.26>
有配偶	6.91	(0.00)	<0.13>
離別・死別	6.27	(0.06)	<0.17>
<b>世帯類型</b>			
単独世帯	5.99	(0.11)	<0.00>
一世代世帯	6.83	(-0.04)	<0.09>
二世帯世帯	6.73	(0.06)	<0.23>
三世帯世帯	7.01	(0.20)	<0.19>
<b>世帯収入</b>			
～100万円未満	5.86	(0.33)	<->
～200万円未満	6.09	(0.13)	<->
～300万円未満	6.42	(0.04)	<->
～400万円未満	6.53	(-0.20)	<->
～500万円未満	6.95	(0.25)	<->
～600万円未満	6.88	(0.03)	<->
～800万円未満	7.11	(0.03)	<->
～1,000万円未満	7.15	(-0.12)	<->
1,000万円以上	7.68	(0.05)	<->

※世帯収入については、第1回調査と収入区分が同一でないことから、比較を行っていません。

## (2) 幸福感を判断する際に重視した事項

幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。

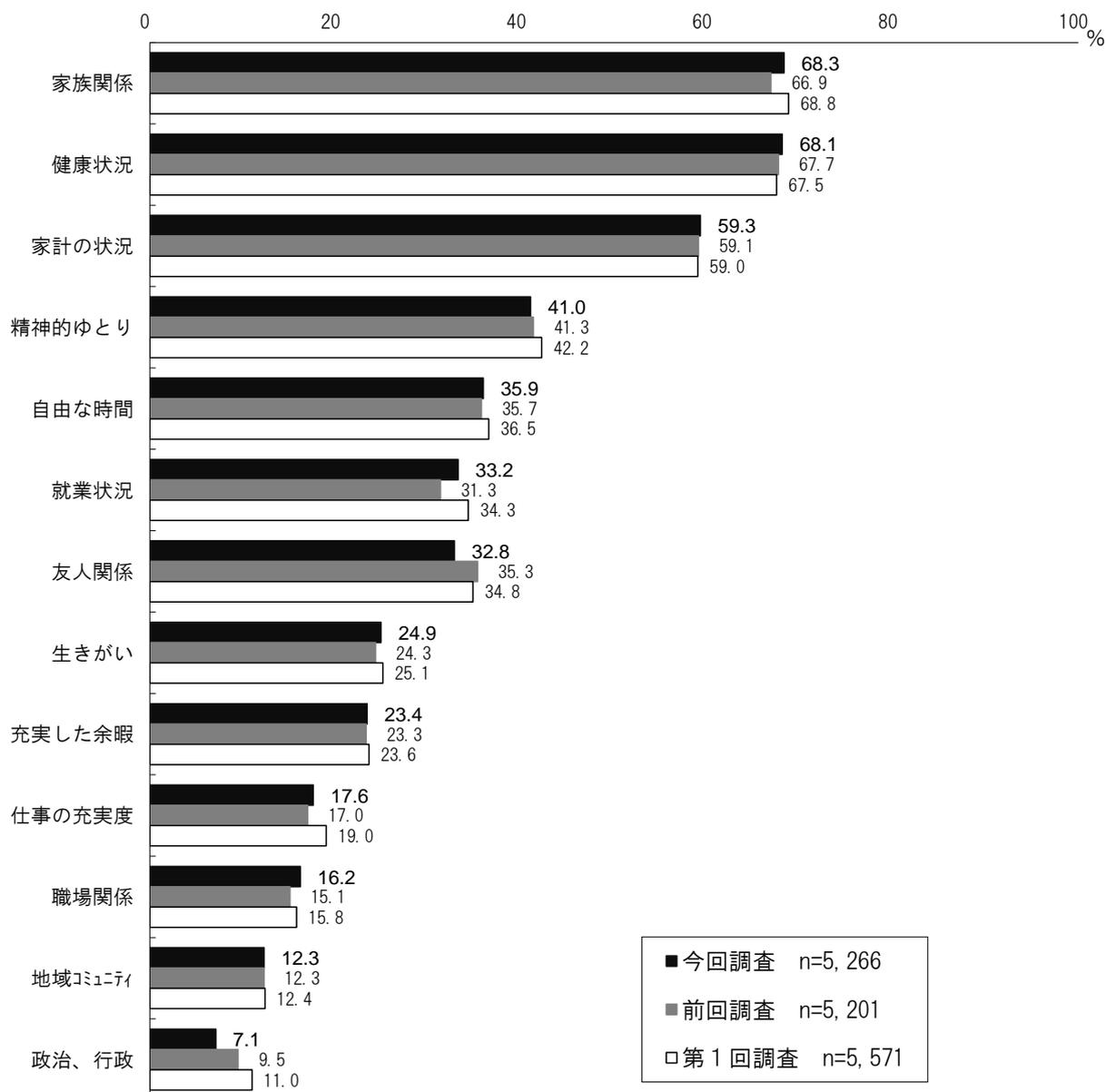
※第1回調査から継続して質問しています

幸福感を判断する際に重視した事項は、「家族関係」の割合が68.3%で最も高く、次いで「健康状況」(68.1%)、「家計の状況」(59.3%)となっています。

第1回調査から第3回調査は「家族関係」が最も高く、第4回調査と前回調査は「健康状況」が最も高くなっていましたが、今回調査は再び「家族関係」が最も高くなっています。

また、第1回調査から前回調査は、「就業状況」より「友人関係」の割合が高くなっていましたが、今回調査では「友人関係」より「就業状況」の割合が高くなっています。

図表6 幸福感を判断する際に重視した事項[複数回答]



(3) 幸福感を高める手立て

あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。

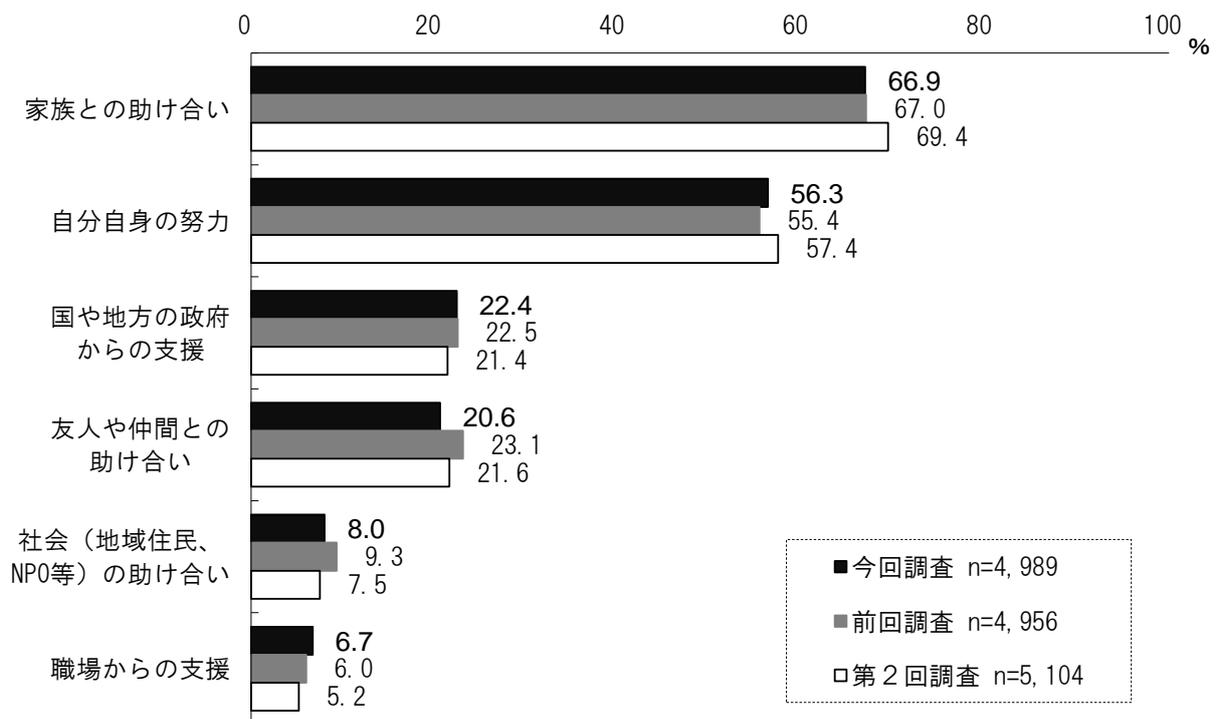
※第2回調査から継続して質問しています

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が 66.9%で最も高く、次いで、「自分自身の努力」(56.3%)、「国や地方の政府からの支援」(22.4%)となっています。

前回調査との比較では、「自分自身の努力」が0.9ポイント、「職場からの支援」が0.7ポイントそれぞれ高く、「友人や仲間との助け合い」が2.5ポイント、「社会（地域住民、NPO等）の助け合い」が1.3ポイントそれぞれ低くなっています。

「国や地方の政府からの支援」が「友人や仲間との助け合い」と入れ替わり、3番目に高くなったことを除くと、前回調査の順位から変動はありません。

図表7 幸福感を高める手立て〔2つまでの複数回答〕



## 2 地域や社会の状況についての実感

報告書 13～45 頁

「地域や社会の状況についての実感」は、「みえ県民力ビジョン」で政策分野ごとに設定した15の「幸福実感指標」に対応した質問となっています。

「幸福実感指標」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

地域や社会の状況について、あなたの実感をおききします。

次の(1)から(15)までの15の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- (1) 災害の危機への備えが進んでいると感じますか。
- (2) 必要な医療サービスが利用できていると感じますか。
- (3) 必要な福祉サービスが利用できていると感じますか。
- (4) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じますか。
- (5) 身近な自然や環境が守られていると感じますか。 (前回調査で質問を変更)
- (6) 性別や年齢、生涯の有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できていると感じますか。 (前回調査で質問を変更)
- (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。
- (8) 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っていると感じますか。 (前回調査で質問を変更)
- (9) スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っていると感じますか。 (前回調査で質問を変更)
- (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。
- (11) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。
- (12) 県内の産業活動が活発であると感じますか。
- (13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。
- (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。
- (15) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。

○ 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。

1 感じる      2 どちらかといえば感じる

3 どちらかといえば感じない      4 感じない      9 わからない

※第1回調査から継続して質問しています

## ○『実感している層』の割合

地域や社会の状況についての実感を聞いたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した『実感している層』の割合は、「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」が83.8%で最も高くなっています。次いで「(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」(73.5%)、「(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(65.4%)の順で、これまでの6回の調査を通じて同順位となっています。

## ○『実感していない層』の割合

「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した『実感していない層』の割合は「(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」が63.4%で、第1回調査以降、継続して最も高くなっています。次いで、「(6)性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている」(55.5%)、「(1)災害の危機への備えが進んでいる」(54.7%)の順となっています。

## ○前回調査との比較

前回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは、15項目のうち13項目で、増加幅が大きかったのは「(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(+5.2ポイント)、「(2)必要な医療サービスが利用できている」(+3.0ポイント)、「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+2.9ポイント)となっています。

また、低くなったのは2項目で、減少幅が大きい順で「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」(-1.7ポイント)、「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(-0.6ポイント)となっています。

一方、『実感していない層』の割合が低くなったのは、15項目のうち11項目で、「(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(-4.4ポイント)の減少幅が最も大きくなっています。また、高くなったのは3項目で「(9)スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っている」(+1.1ポイント)、「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」(+1.1ポイント)の増加幅が最も大きくなっています。

## ○第1回調査との比較

第1回調査から質問内容を変えずに継続的におききしている11項目のうち、第1回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは9項目で、増加幅が最も大きかったのは「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+19.1ポイント)、次いで「(1)災害の危機への備えが進んでいる」(+9.8ポイント)、「(12)県内の産業活動が活発である」(+7.6)となっています。

一方、『実感していない層』の割合は、「(3)必要な福祉サービスが利用できている」(+0.6ポイント)、「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」(+1.2ポイント)を除く9項目で第1回調査より低くなっています。

図表8 地域や社会の状況についての実感（一覧）

	<input type="checkbox"/> 感じる <input type="checkbox"/> どちらかといえば感じる <input type="checkbox"/> どちらかといえば感じない <input type="checkbox"/> 感じない <input type="checkbox"/> わからない・不明					実感している層		実感していない層	
						今回	(前回差) 〈第1回差〉	今回	(前回差) 〈第1回差〉
						%	ポイント	%	ポイント
(1)災害の危機への備えが進んでいる	3.7	30.5	33.7	21.0	11.1	34.2	(1.7) 〈9.8〉	54.7	(-1.6) 〈-11.8〉
(2)必要な医療サービスが利用できる	11.3	40.7	22.7	14.9	10.4	52.0	(3.0) 〈6.6〉	37.6	(-2.5) 〈-7.5〉
(3)必要な福祉サービスが利用できる	4.9	26.6	26.8	19.8	22.0	31.5	(1.7) 〈-1.2〉	46.6	(-0.4) 〈0.6〉
(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている	15.5	49.9	17.4	11.2	6.1	65.4	(5.2) 〈6.5〉	28.6	(-4.4) 〈-7.8〉
(5)身近な自然や環境が守られている	7.6	41.7	26.8	14.9	9.1	49.3	(1.4) 〈-〉	41.7	(-0.2) 〈-〉
(6)性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている	3.4	23.4	34.6	20.9	17.7	26.8	(1.0) 〈-〉	55.5	(0.0) 〈-〉
(7)子どものためになる教育が行われている	3.5	30.9	27.9	16.5	21.2	34.4	(0.9) 〈6.7〉	44.4	(-0.6) 〈-5.5〉
(8)結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている	9.2	36.5	23.1	14.4	16.9	45.7	(2.4) 〈-〉	37.5	(-2.0) 〈-〉
(9)スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っている	5.4	36.4	28.6	14.1	15.5	41.8	(0.5) 〈-〉	42.7	(1.1) 〈-〉
(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい	33.0	40.5	10.5	7.4	8.6	73.5	(0.4) 〈0.4〉	17.9	(-0.7) 〈-1.8〉
(11)三重県産の農林水産物を買いたい	42.9	40.9	6.3	2.8	7.1	83.8	(-1.7) 〈-3.6〉	9.1	(1.1) 〈1.2〉
(12)県内の産業活動が活発である	4.5	30.9	32.1	12.1	20.5	35.4	(1.5) 〈7.6〉	44.2	(-0.9) 〈-9.9〉
(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる	5.4	31.0	29.0	17.1	17.5	36.4	(2.9) 〈19.1〉	46.1	(-0.9) 〈-18.1〉
(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている	2.0	19.0	33.8	29.6	15.6	21.0	(2.5) 〈7.3〉	63.4	(-2.1) 〈-9.3〉
(15)道路や公共交通機関等が整っている	5.1	35.3	28.4	23.8	7.3	40.4	(-0.6) 〈2.9〉	52.2	(0.8) 〈-3.7〉

※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計  
 ※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※割合は、「わからない」や「不明（未回答など）」も分母に含めて算出

※前回調査で質問を変更したものは、第1回調査と比較していない

### 3 ご家族に関すること

報告書 66～67 頁

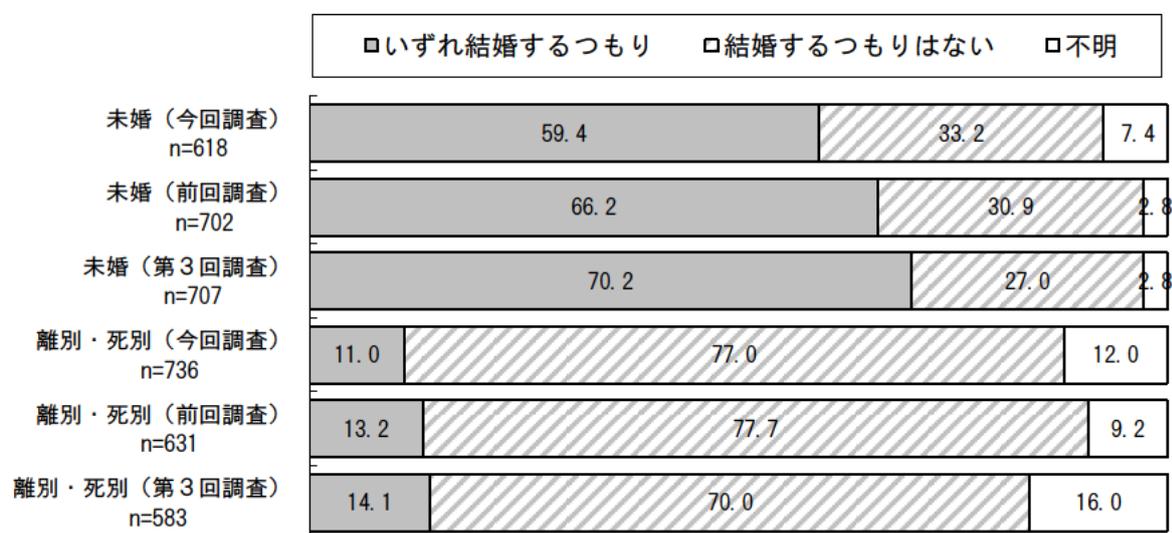
#### (1) 結婚に対する考え方

今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

※第3回、前回、今回調査で質問しています  
 未婚の方または離別・死別した方に対して、結婚に対する考え方を質問したところ、未婚は「いずれ結婚するつもり」が 59.4%、「結婚するつもりはない」が 33.2%となっています。離別・死別は「いずれ結婚するつもり」が 11.0%、「結婚するつもりはない」が 77.0%となっています。

未婚も離別・死別も「いずれ結婚するつもり」が第3回調査及び前回調査より低くなっています。

図表9 結婚に対する考え方



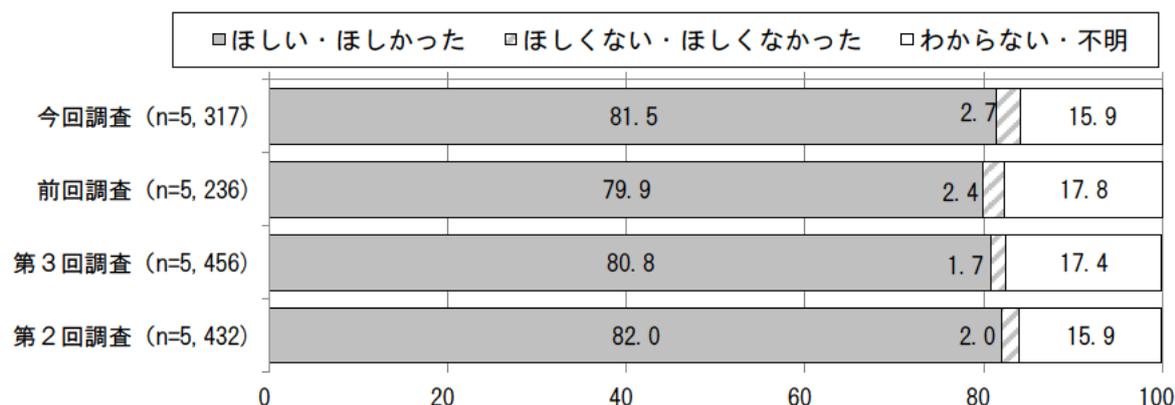
報告書 68～69 頁

#### (2) 子どもを希望する割合

あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいはほしかったですか。

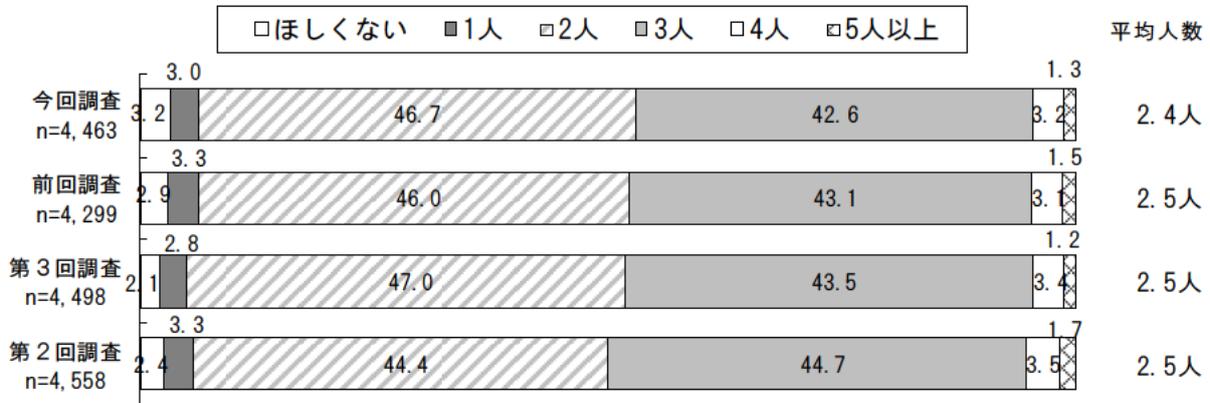
※第2回、第3回、前回、今回調査で質問しています。  
 子どもの希望を質問したところ、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は 81.5%で、前回調査より 1.6ポイント高くなっています。

図表10 子どもを希望する割合



理想の子どもの数について、「2人」の割合が46.7%で最も高く、次いで「3人」(42.6%)と なっています。前回調査と比較すると「0人(ほしくない、ほしくなかった)」及び「2人」な どの割合が高くなった一方、「1人」、「3人」、「5人以上」の割合は低くなっています。理想の子ど もの数の平均は2.4人で、前回調査より0.1人少なくなっています。

図表11 理想の子どもの数



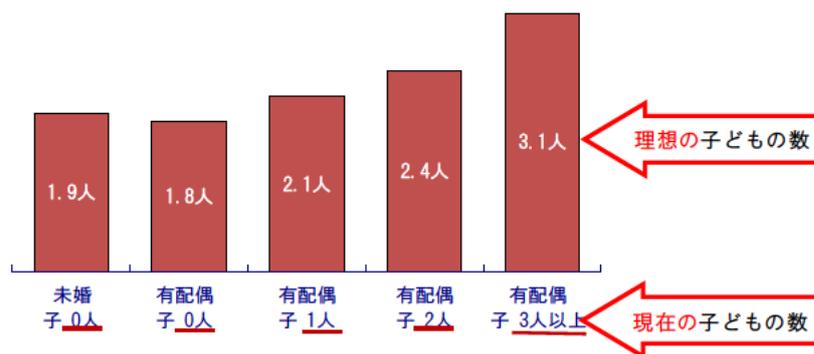
(3) 子どもの数の理想と現実のギャップ (参考集計)

報告書 71頁

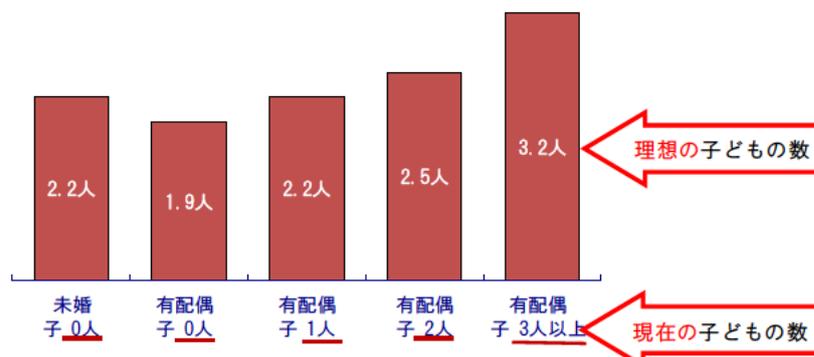
20歳代~40歳代を対象に実際の子どもの数と理想の子どもの数の関係を見たところ、理想の子どもの数は、未婚で子どもいない層は1.9人、有配偶で子どもがいない層は1.8人、有配偶で子ども1人の層は2.1人、有配偶で子ども2人の層は2.4人、有配偶で子ども3人以上の層は3.1人で、実際の子どもの数は理想の数より少なく、前回調査と同様の結果となっています。

前回調査と比べると理想の子どもの数は、未婚で子どもがいない層で0.3人、有配偶で子ども0人、有配偶で子ども1人、有配偶で子ども2人、有配偶で子ども3人以上の層で、それぞれ0.1人ずつ減少しています。

図表12 20歳代~40歳代の子どもの数の理想と現実(今回調査)



図表13 20歳代~40歳代の子どもの数の理想と現実(前回調査)



(4) 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについての考え方

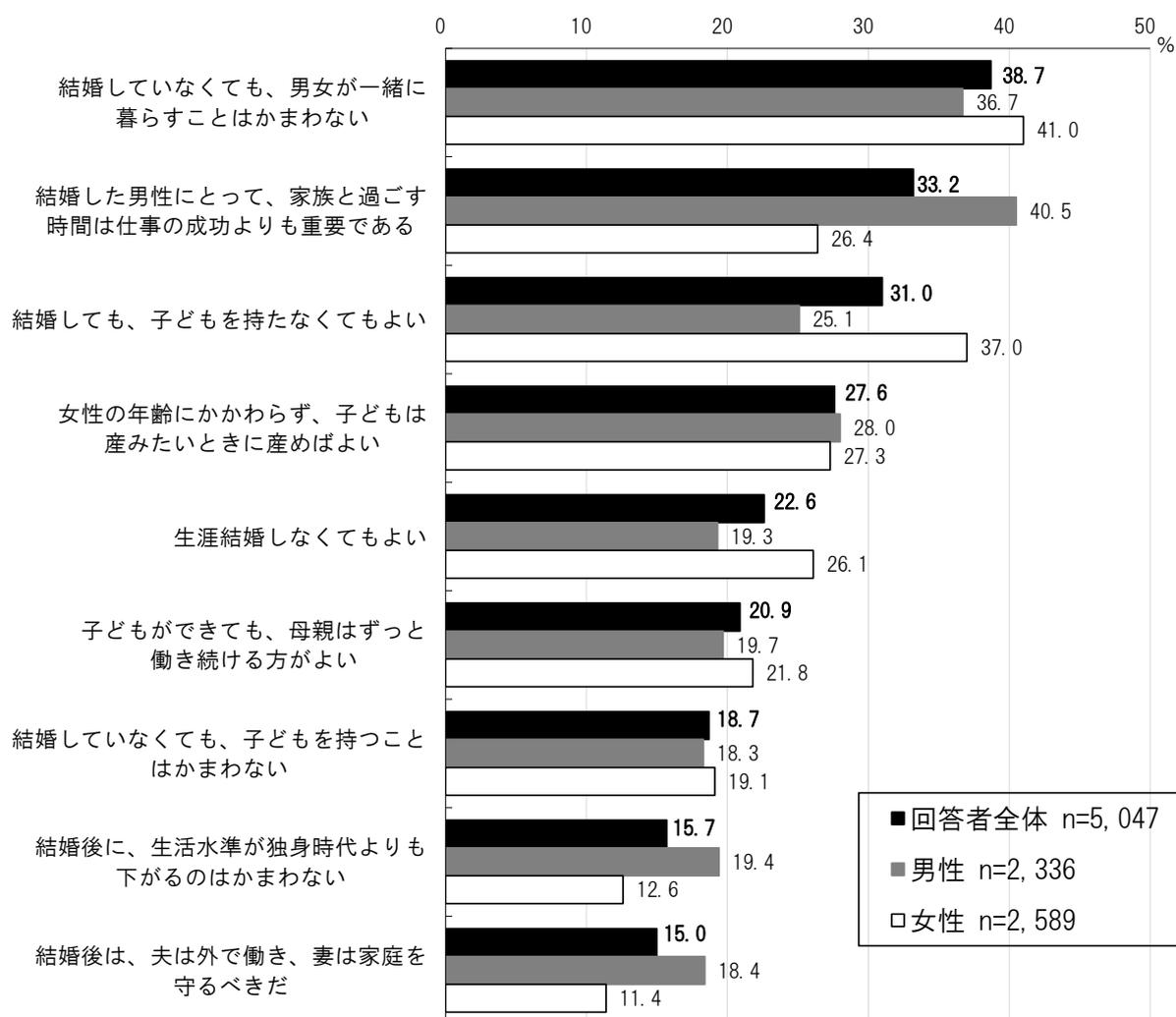
結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、次の例の中からあなた自身のお考えとして賛成できるものすべてに○をつけてください。

※新規の質問です

結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについて、賛成できる考え方を質問したところ、「結婚しなくても、男女が一緒に暮らすことはかまわない」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要である」(33.2%)、「結婚しても、子どもを持たなくてもよい」(31.0%)の順となっています。

性別で見ると、男性は、「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要である」、「結婚後に、生活水準が独身時代よりも下がるのはかまわない」、「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」の割合が女性より5ポイント以上高く、女性は、「結婚しても、子どもを持たなくてもよい」、「生涯結婚しなくてもよい」の割合が男性より5ポイント以上高くなっています。

図表 14 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについて、賛成できる考え方(複数回答)



(5) 家事や育児、子どもの世話、介護などの時間

あなたは1日の中で、家事（炊事、洗たく、そうじなど）や育児・子どもの世話、介護などにどのくらい時間をかけていますか。

※第2回調査以来の質問です

家事や育児、子どもの世話、介護などの時間について質問したところ、平日は、「する」の割合が64.0%、「ほとんどしない」の割合が24.7%、休日は、「する」の割合が66.6%、「ほとんどしない」の割合が20.0%となっています。

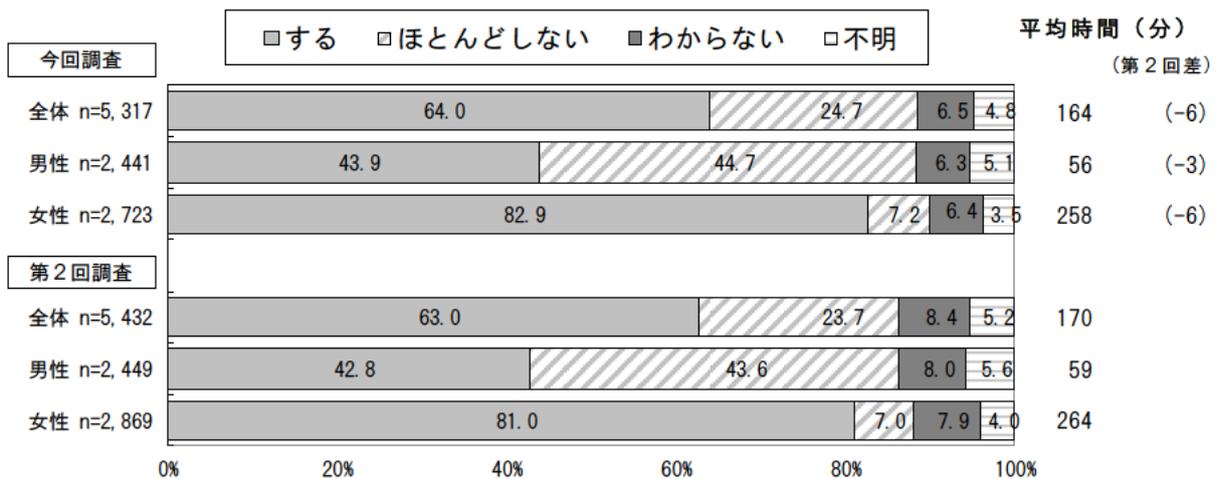
する人の割合を性別で見ると、平日は、男女の「する」の割合の差が40ポイント程度となっており、休日は、30ポイント程度となっています。

平均時間を性別で見ると、平日及び休日ともに、女性は男性より200分以上長くなっています。

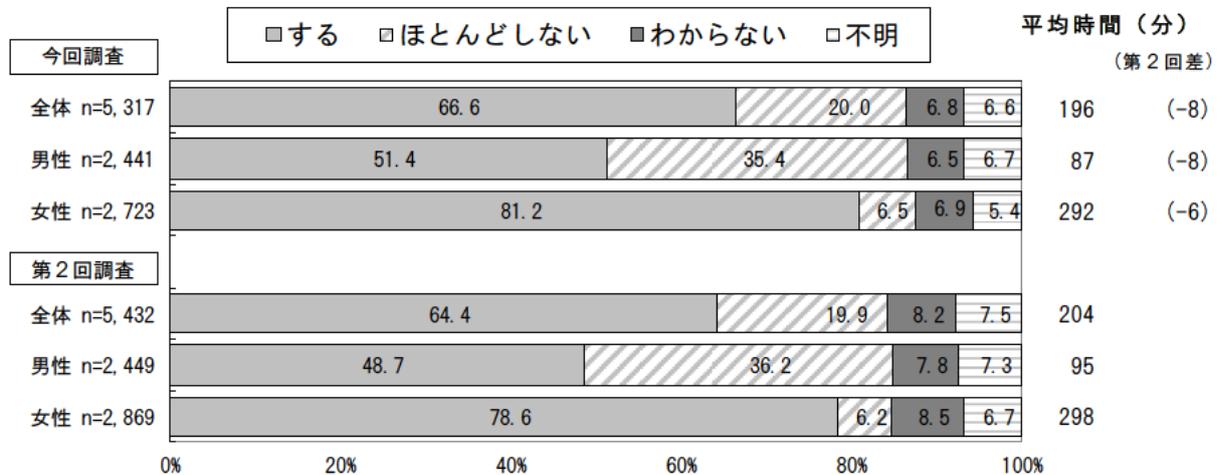
第2回調査と比べると、平日及び休日における回答者全体、男女いずれにおいても、「する」の割合が高くなっている一方で、平均時間は短くなっています。

図表 15 家事や育児、子どもの世話、介護などの時間

【平日】



【休日】



※ 「する」または「ほとんどしない」と回答した人を対象に平均時間を算出

※ 平均時間については「ほとんどしない」の回答を「0分」とし、「する」の回答者のうち時間が明記された回答をもとに算出

## 4 働き方に関すること

報告書 88～89 頁

### (1) 何歳くらいまで働きたいか（勤労意欲）

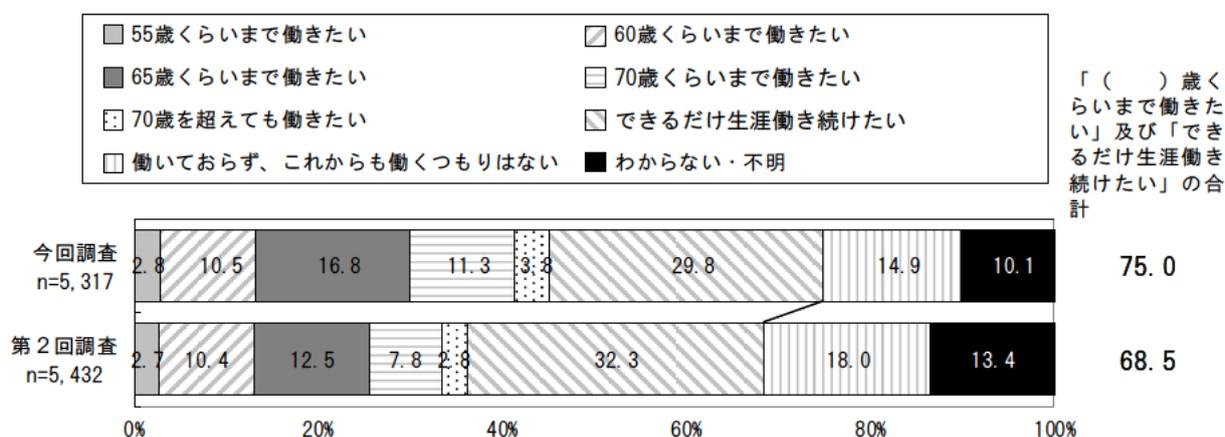
あなたは何歳くらいまで働きたい（収入のある仕事をしたい）とお考えですか。

※第2回調査以来の質問です

何歳くらいまで働きたいか質問したところ、「できるだけ生涯働き続けたい」が 29.8%と最も高く、次いで「65歳くらいまで働きたい」（16.8%）、「働いておらず、これからも働くつもりはない」（14.9%）となっています。

「（ ）歳くらいまで働きたい」及び「できるだけ生涯働き続けたい」の合計は 75.0%で、第2回調査と比べ、6.5ポイント高くなっています。

図表 16 何歳くらいまで働きたいか(勤労意欲)



## (2) 働く理由または一定年齢以上働かない理由

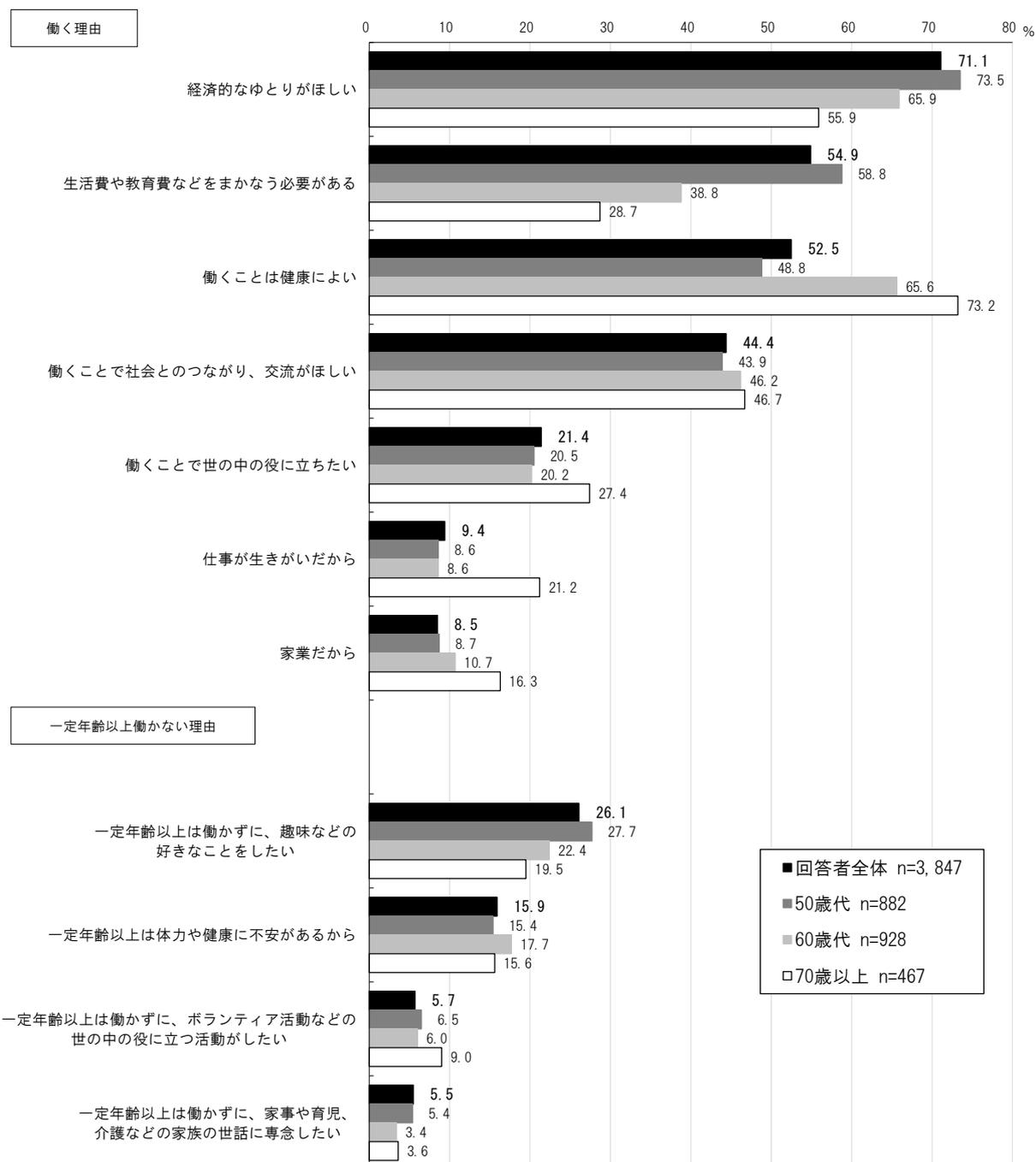
「( ) 歳くらいまで働きたい」または「できるだけ生涯働きたい」とお考えの理由は何ですか。

※新規の質問です

「( ) 歳くらいまで働きたい」または「できるだけ生涯働きたい」とお考えの方に対して、働きたい理由を質問したところ、「経済的なゆとりがほしい」が71.1%と最も高く、次いで「生活費や教育費などをまかなう必要がある」(54.9%)、「働くことは健康によい」(52.5%)となっています。

50歳以上を年代別で見ると、「経済的なゆとりがほしい」、「生活費や教育費などをまかなう必要がある」、「一定年齢以上は働かずに、趣味などの好きなことをしたい」の割合は年代が高くなるほど低くなっており、「働くことは健康によい」、「働くことで社会とのつながり、交流がほしい」、「家業だから」の割合は年代が高くなるほど高くなっています。

図表 17 働く理由または一定年齢以上働かない理由(複数回答)



### (3) 魅力を感じる働き方

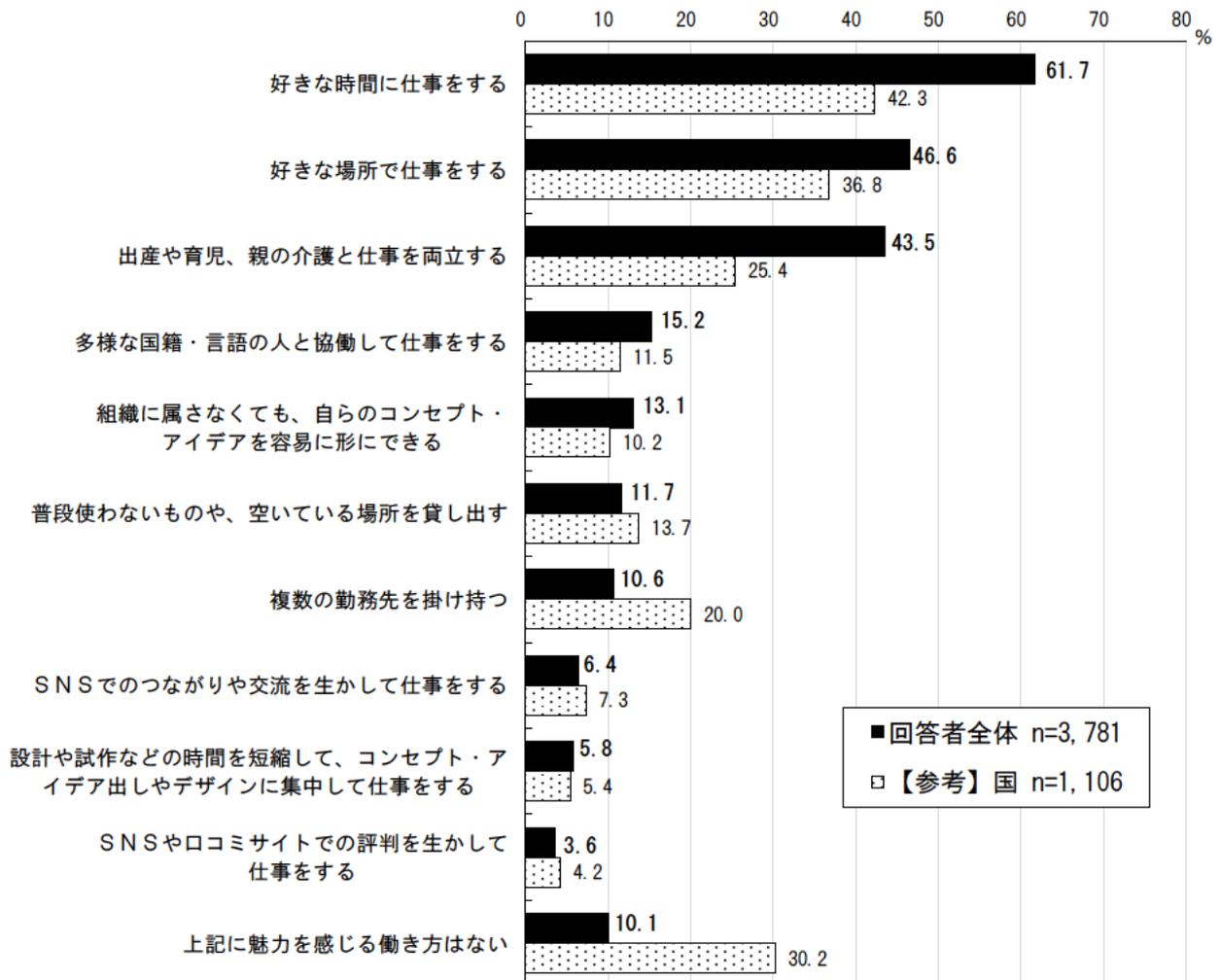
長時間労働是正などの働き方改革やICT（情報通信技術）の進展によって、多様な働き方が選択できるようになると期待されています。あなたは、どのような働き方に魅力を感じますか。

※新規の質問です

「( )歳くらいまで働きたい」または「できるだけ生涯働きたい」とお考えの方に対して、魅力を感じる働き方を質問したところ、「好きな時間に仕事をする」が61.7%と最も高く、次いで「好きな場所で仕事をする」(46.6%)、「出産や育児、親の介護と仕事を両立する」(43.5%)となっています。

国が就労者に対して同様の質問をしているため、国と比べると、三重県の回答者全体は、「好きな時間に仕事をする」、「好きな場所で仕事をする」、「出産や育児、親の介護と仕事を両立する」の割合が10ポイント程度以上高くなっています。一方、「複数の勤務先を掛け持つ」、「上記に魅力を感じる働き方はない」が10ポイント程度以上低くなっています。

図表 18 魅力を感じる働き方(複数回答)



※ 国調査：総務省「ICTの進化が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究」(平成28年)

(4) 60歳を超えてから、どのように働きたいか

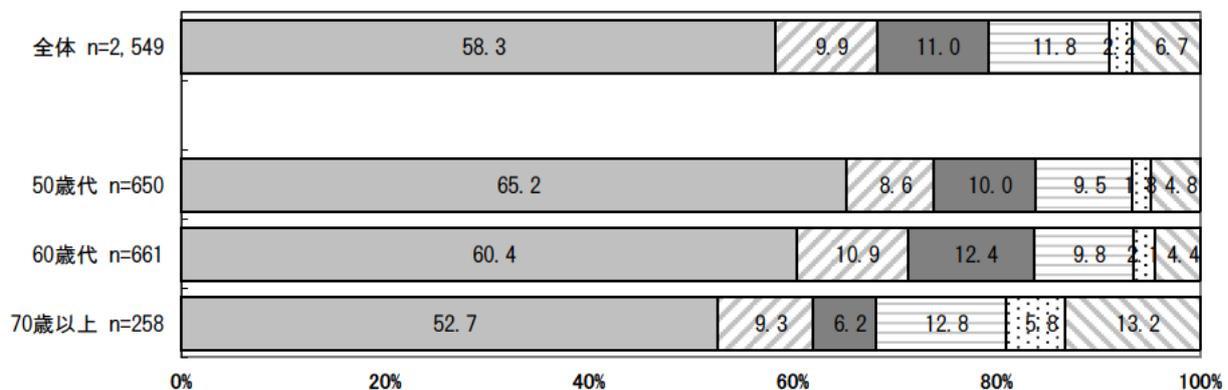
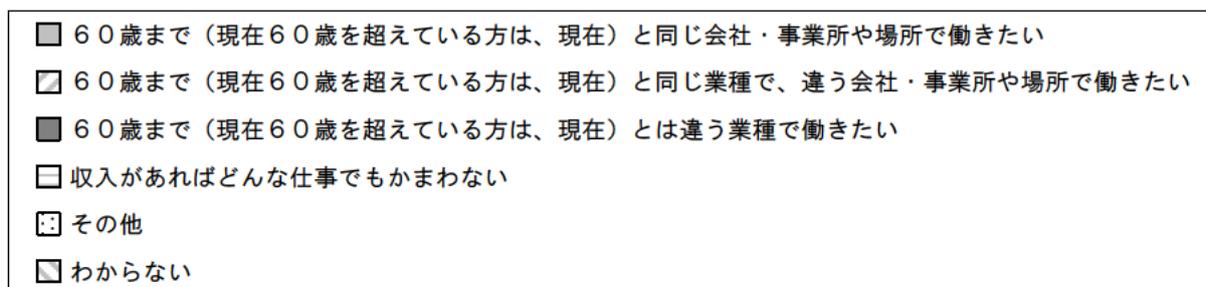
あなたは、60歳を超えて(現在60歳を超えている方は、今後)、どのように働きたいと考えていますか。

※新規の質問です

60歳を超えてからも働きたいとお考えの方に対して、60歳を超えてから、どのように働きたいか質問したところ、「60歳まで(現在60歳を超えている方は、現在)と同じ会社・事業所や場所で働きたい」の割合が58.3%と最も高く、次いで「収入があればどんな仕事でもかまわない」(11.8%)、「60歳まで(現在60歳を超えている方は、現在)とは違う業種で働きたい」(11.0%)の順となっています。

50歳以上の年代別で見ると、「60歳まで(現在60歳を超えている方は、現在)と同じ会社・事業所や場所で働きたい」の割合は年代が高くなるほど低くなっており、「収入があればどんな仕事でもかまわない」の割合は年代が高くなるほど高くなっています。

図表 19 60歳を超えてから、どのように働きたいか



## 5 情報の入手に関すること

報告書 100~101 頁

### (1) さまざまな情報を入手する手段

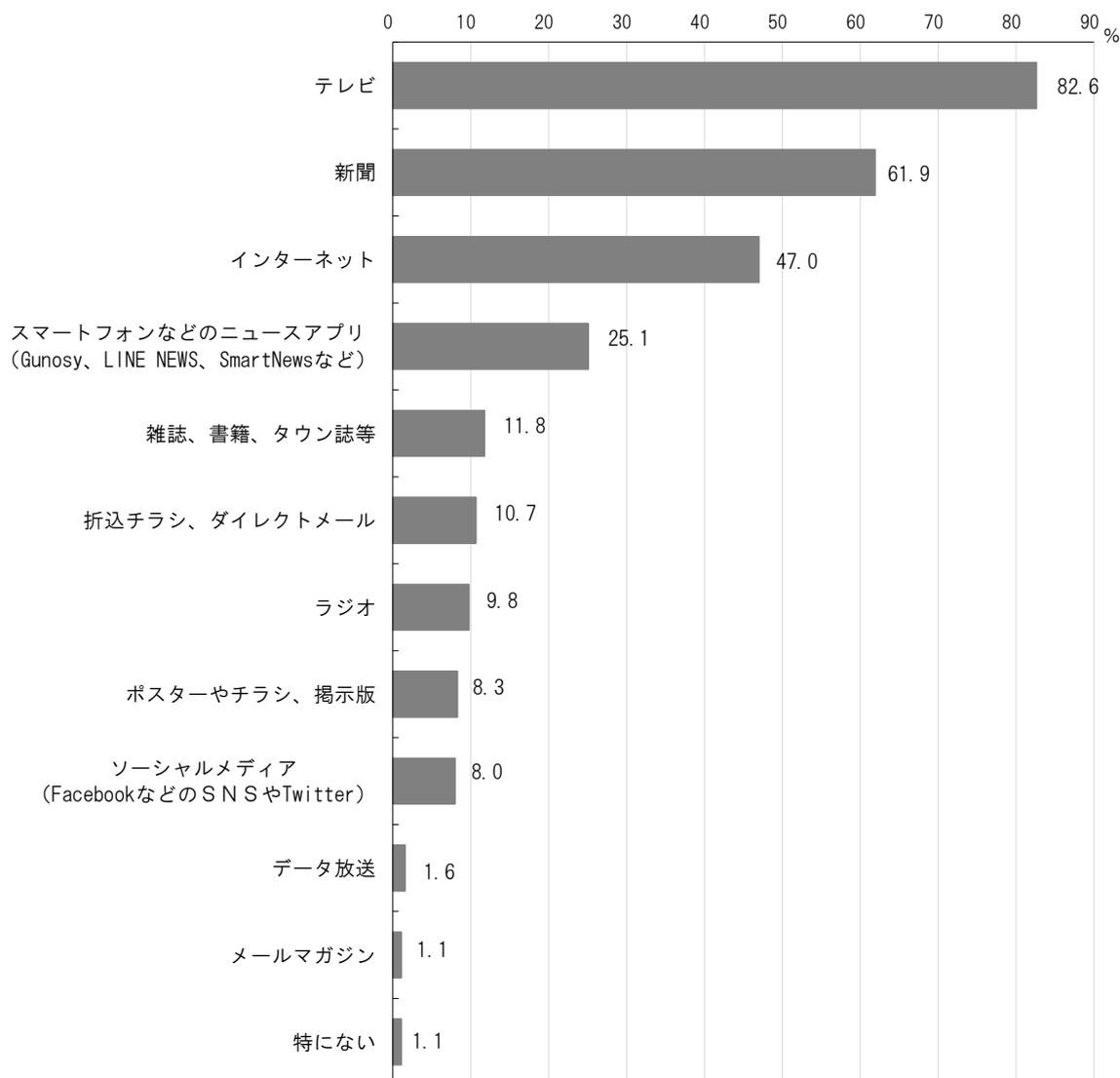
近年では政府、自治体、民間企業、個人などが情報を発信するさまざまな手段がありますが、あなたは情報※を入手する際、次の中でどの手段を頻繁に利用していますか。

※ 情報とは、ニュース、天気予報、観光情報、ショッピング・商品情報、健康・医療関係情報、グルメ・娯楽情報等のことです。

※新規の質問です

さまざまな情報を入手する手段を質問したところ、「テレビ」が 82.6%と最も高く、次いで「新聞」(61.9%)、「インターネット」(47.0%)となっています。

図表 20 さまざまな情報を入手する手段(3つまでの複数回答)



## (2) 三重県が提供している情報の入手手段

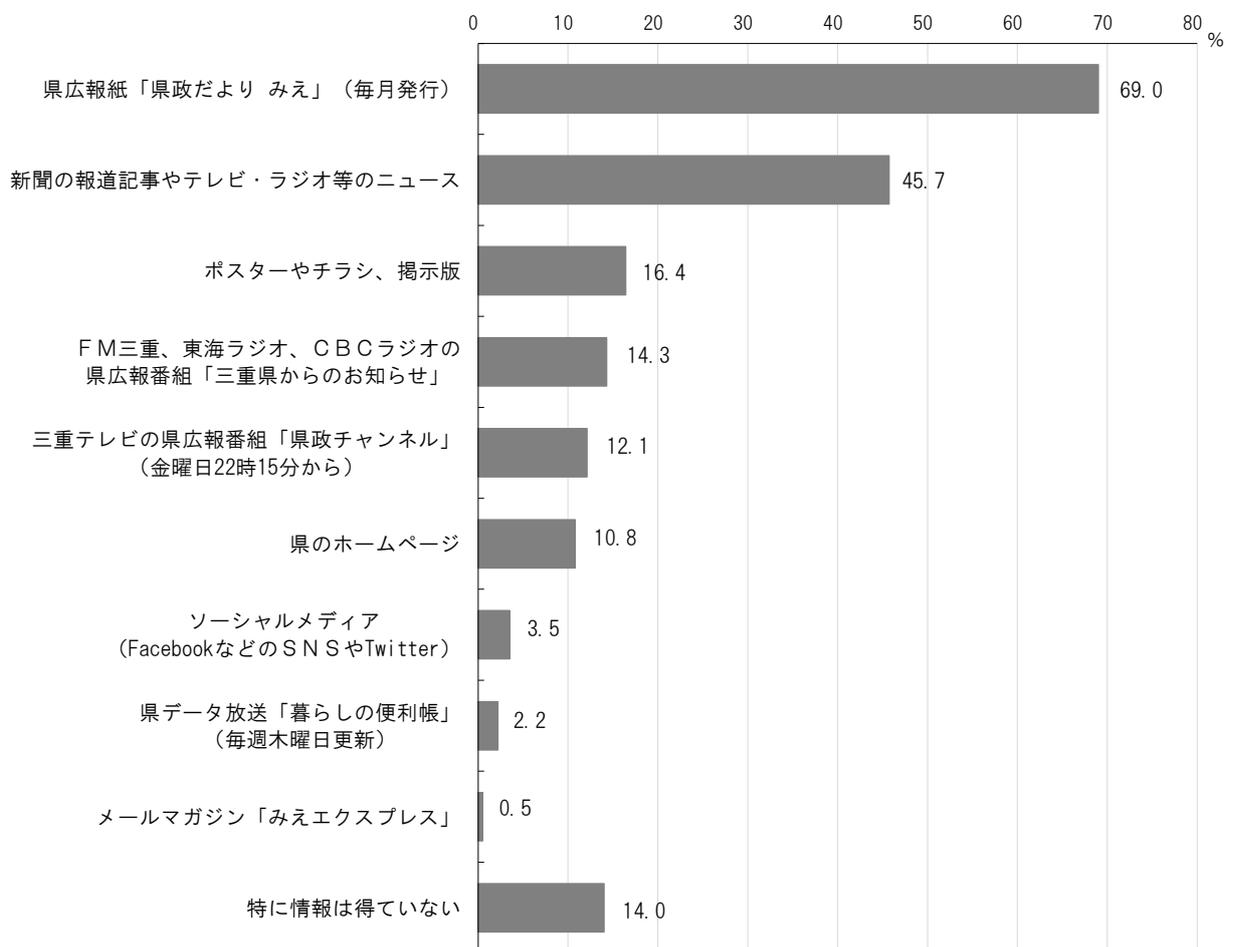
あなたは、三重県が提供している情報※をどこから得ていますか。

※ 三重県が提供している情報とは、県の計画・政策・財政、募集案内、催し物案内、研修案内、各種統計、県有施設の案内、官公署の事務手続き方法等に関する情報のことです。

※新規の質問です

三重県が提供している情報の入手手段を質問したところ、「県広報紙『県政だより みえ』」が 69.0%と最も高く、次いで「新聞の報道記事やテレビ・ラジオ等のニュース」(45.7%)、「ポスターやチラシ、掲示版」(16.4%)となっています。

図表 21 三重県が提供している情報をどこから得ていますか(複数回答)



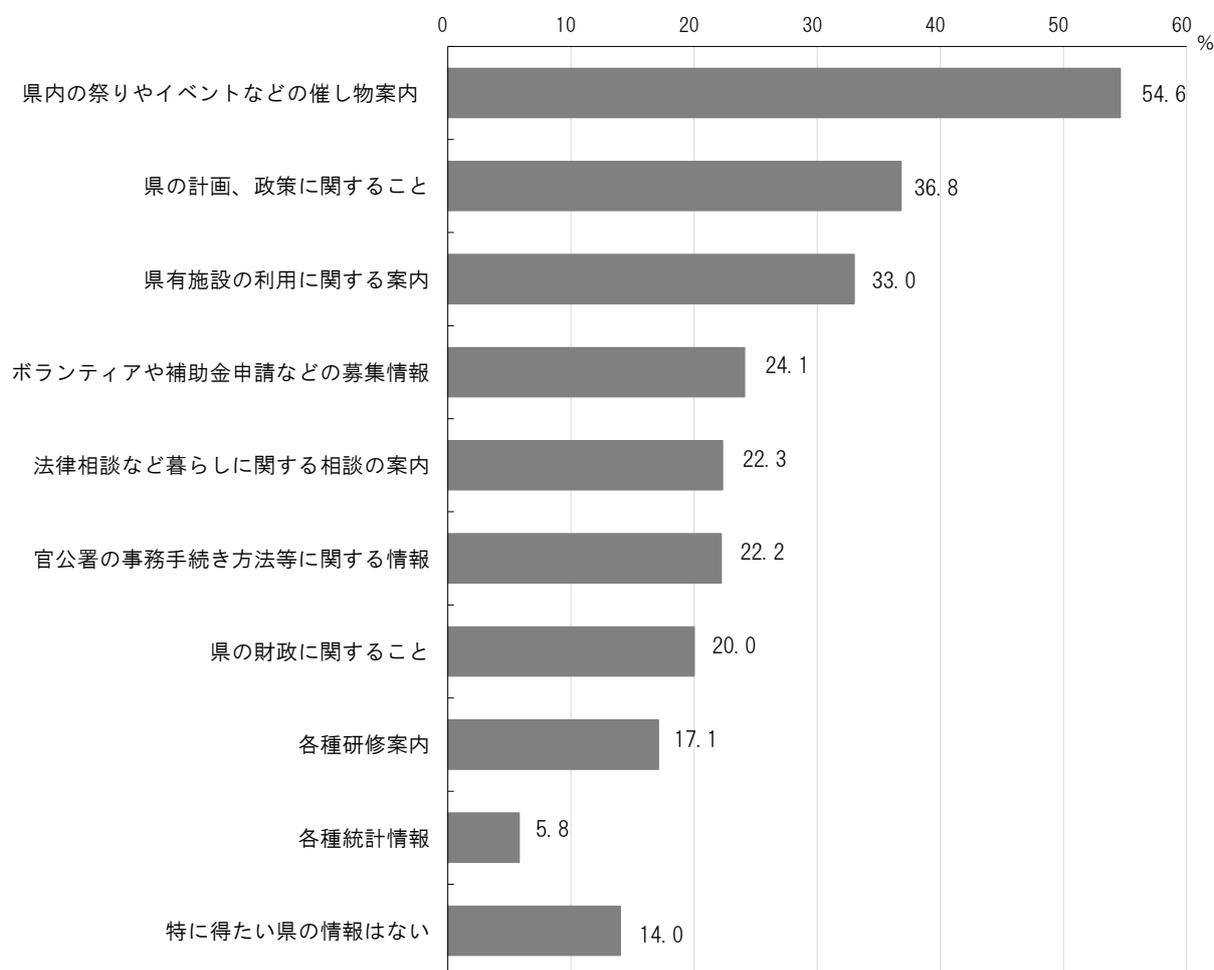
### (3) 得たいと思う県の情報

三重県からはさまざまな情報を提供していますが、あなたはどのような県の情報を得たいと思いますか。

※新規の質問です

得たいと思う県の情報を質問したところ、「県内の祭りやイベントなどの催し物案内」が 54.6% と最も高く、次いで「県の計画、政策に関すること」(36.8%)、「県有施設の利用に関する案内」(33.0%) となっています。

図表 22 得たいと思う県の情報(複数回答)



## 6 動物愛護に関すること

報告書 108～109 頁

### (1) 飼っているペットの種類

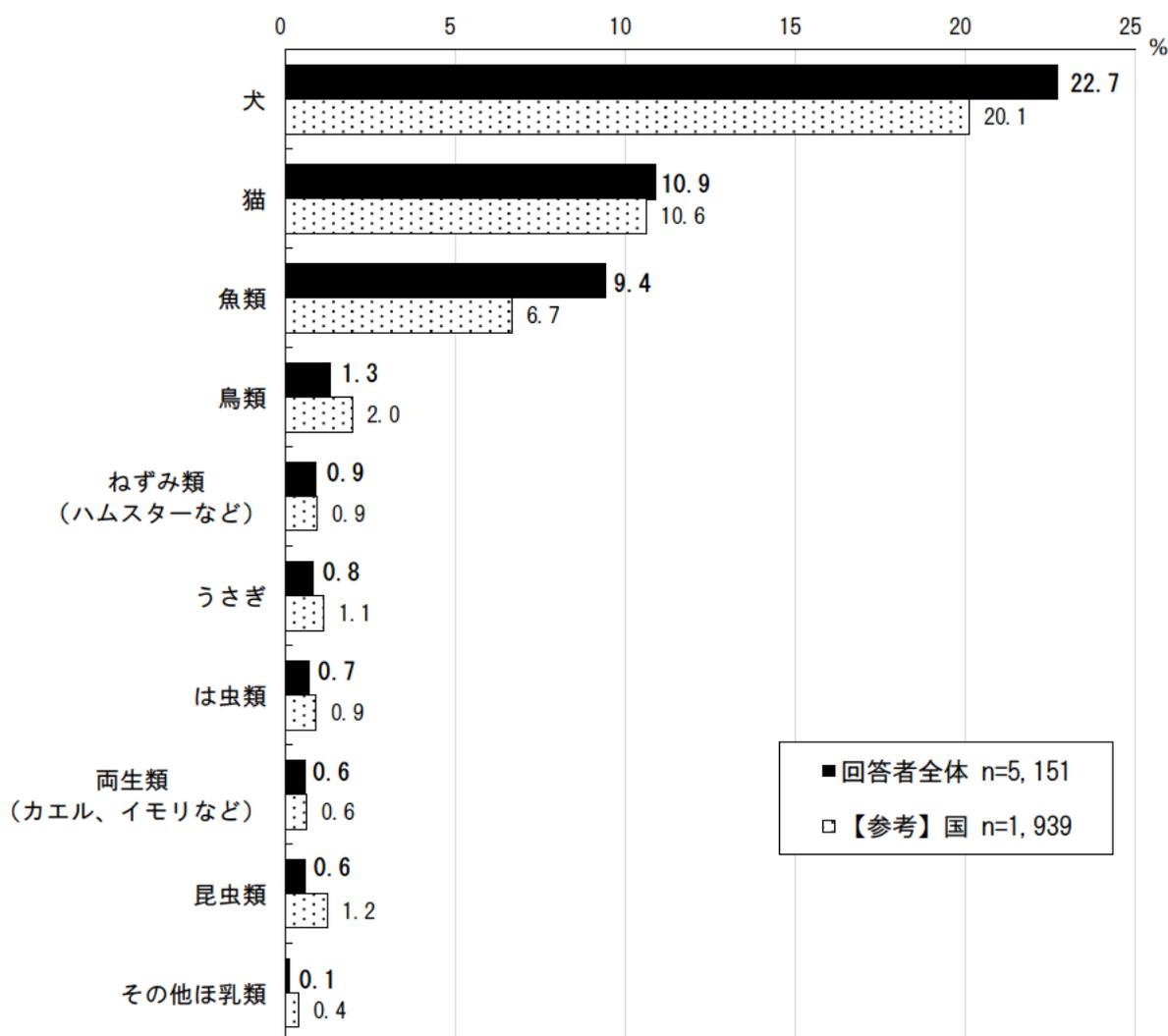
お宅では、どんなペットを飼っていますか。

※新規の質問です

飼っているペットの種類を質問したところ、「犬」が22.7%と最も高く、次いで「猫」(10.9%)、「魚類」(9.4%)となっています。

国が20歳以上の者に対して同様の質問をしているため、国と比べると、三重県の回答者全体は、「犬」及び「魚類」の割合が高くなっており、「ねずみ類(ハムスターなど)」、「両生類(カエル、イモリなど)」の割合は同率となっています。その他のペットの割合は国より低くなっています。

図表 23 飼っているペットの種類【ペットの飼育あり】(複数回答)



※ 国調査：内閣府「動物愛護に関する世論調査」(平成22年度)

※ 「飼っていない」の割合は、三重県の回答者全体が61.0%、国が65.7%となっており、三重県の回答者全体の方が国より4.7ポイント低くなっています。

(2) ペットとして動物を飼うことについて、よいと思うこと

あなたは、ペットとして動物を飼うことについて、よいと思うことはどのようなことですか。

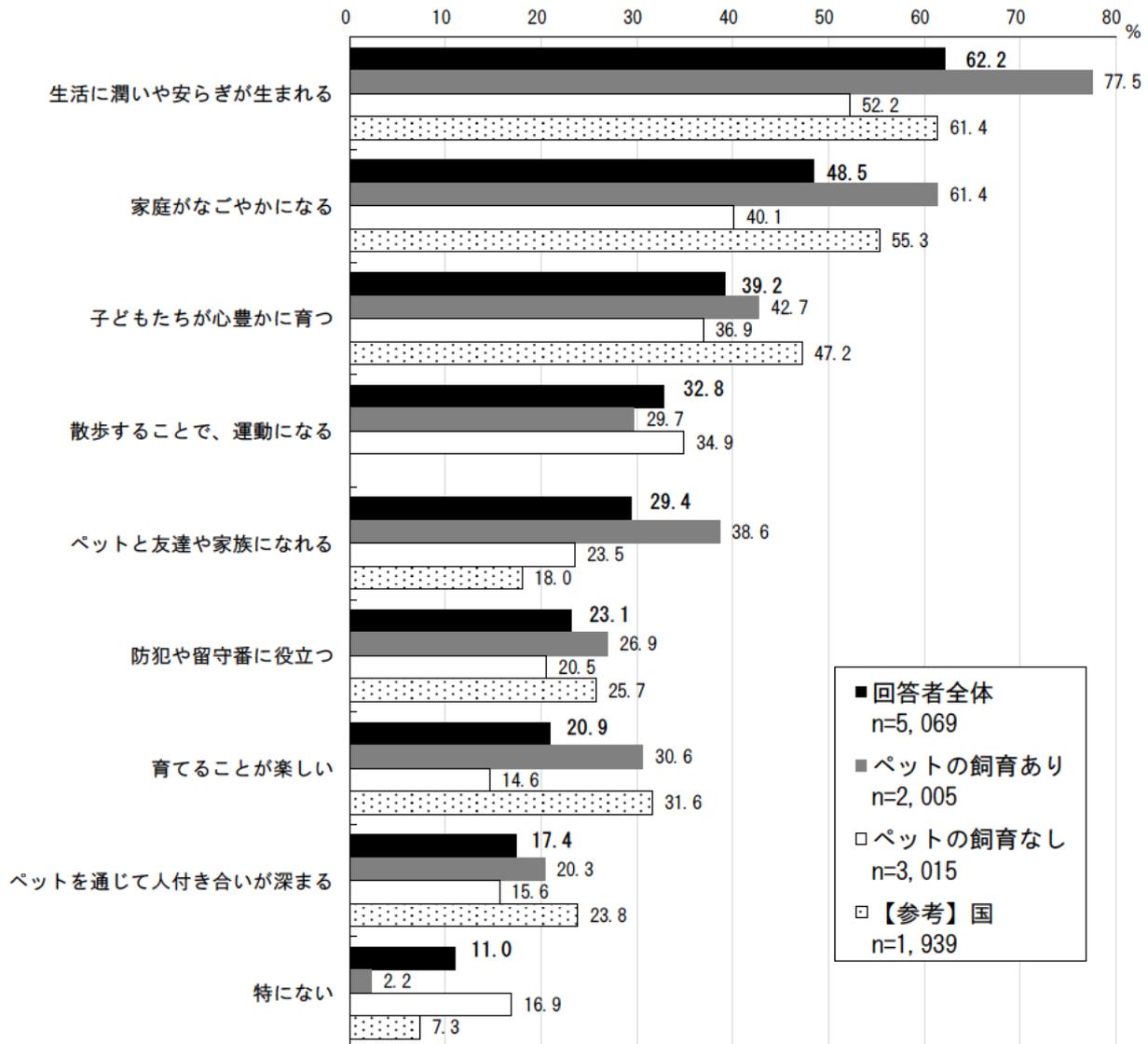
※新規の質問です

ペットとして動物を飼うことについて、よいと思うことを質問したところ、「生活に潤いや安らぎが生まれる」が62.2%と最も高く、次いで「家庭がなごやかになる」(48.5%)、「子どもたちが心豊かに育つ」(39.2%)となっています。

ペットの飼育のあり・なし別で見ると、「散歩することで、運動になる」及び「特にない」を除くすべての項目の割合で、ペットの飼育ありの方が高くなっています。

国が20歳以上の者に対して同様の質問をしているため、国と比べると、三重県の回答者全体は、「生活に潤いや安らぎが生まれる」、「ペットと友達や家族になれる」、「特にない」の割合が高くなっています。

図表 24 ペットとして動物を飼うことについて、よいと思うこと(複数回答)



※ 国調査：内閣府「動物愛護に関する世論調査」(平成22年度)

※「散歩することで、運動になる」は国の調査では項目に入っていません。

※「ペットと友達や家族になれる」は国の調査では「友達になれる」となっています。

(3) 他人がペットを飼うことについて、迷惑を感じること

あなたは、他人がペットを飼うことについて、どのようなことに迷惑を感じますか。

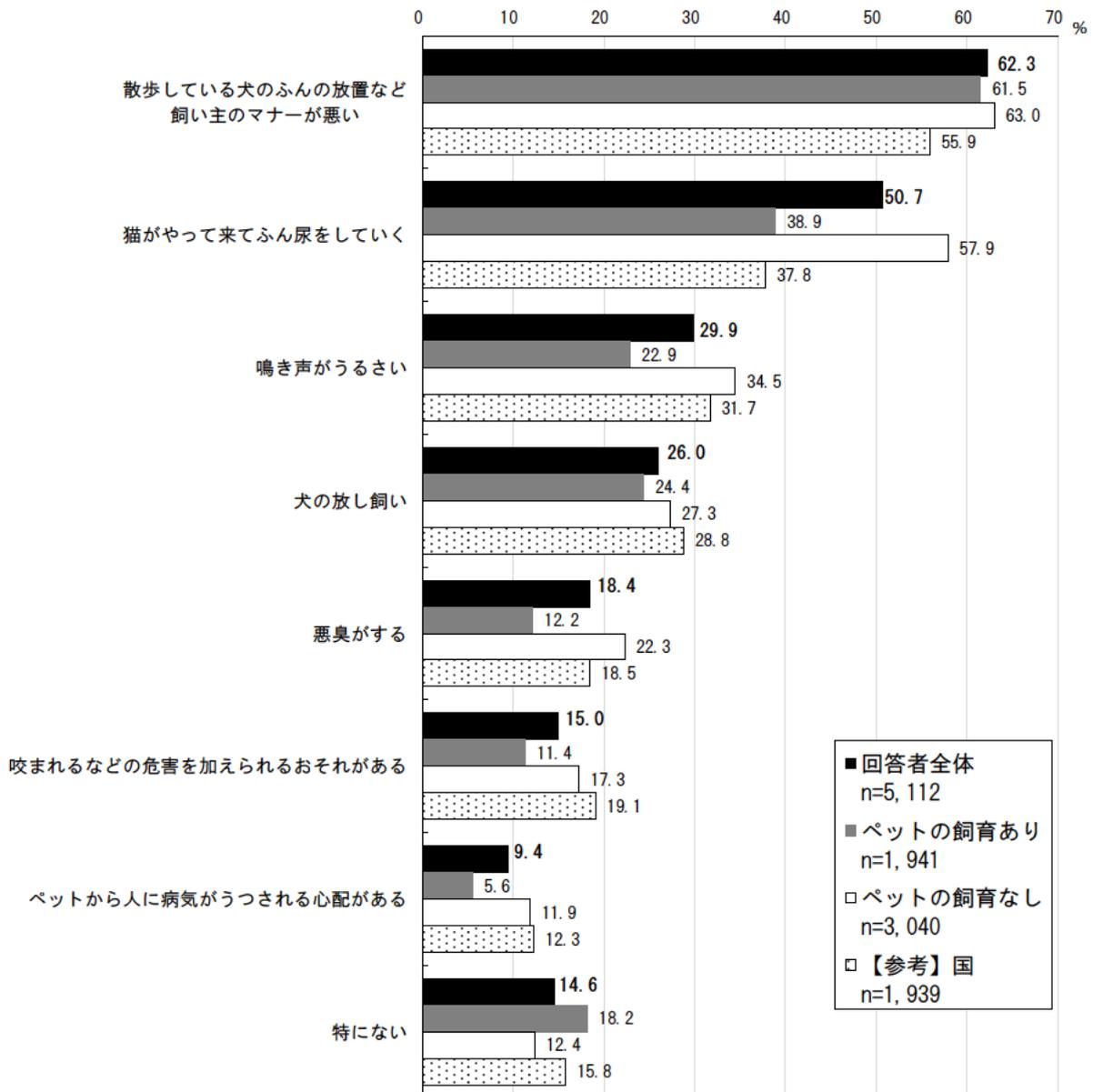
※新規の質問です

他人がペットを飼うことについて、迷惑を感じることを質問したところ、「散歩している犬のふんの放置など飼い主のマナーが悪い」が62.3%と最も高く、次いで「猫がやって来てふん尿をしていく」(50.7%)、「鳴き声がうるさい」(29.9%)となっています。

ペットの飼育のあり・なし別で見ると、「特にない」を除くすべての項目の割合で、ペットの飼育なしの方が高くなっています。

国が20歳以上の者に対して同様の質問をしているため、国と比べると、三重県の回答者全体は、「散歩している犬のふんの放置など飼い主のマナーが悪い」、「猫がやって来てふん尿をしていく」の割合が高くなっています。

図表 25 他人がペットを飼うことについて、迷惑を感じること(複数回答)



※ 国調査：内閣府「動物愛護に関する世論調査」(平成22年度)

(4) 国や地方公共団体が取り組むべきこと

あなたは、ペットの愛護や適正な飼育の推進のために、国や地方公共団体が取り組むべきことは何だと思いませんか。

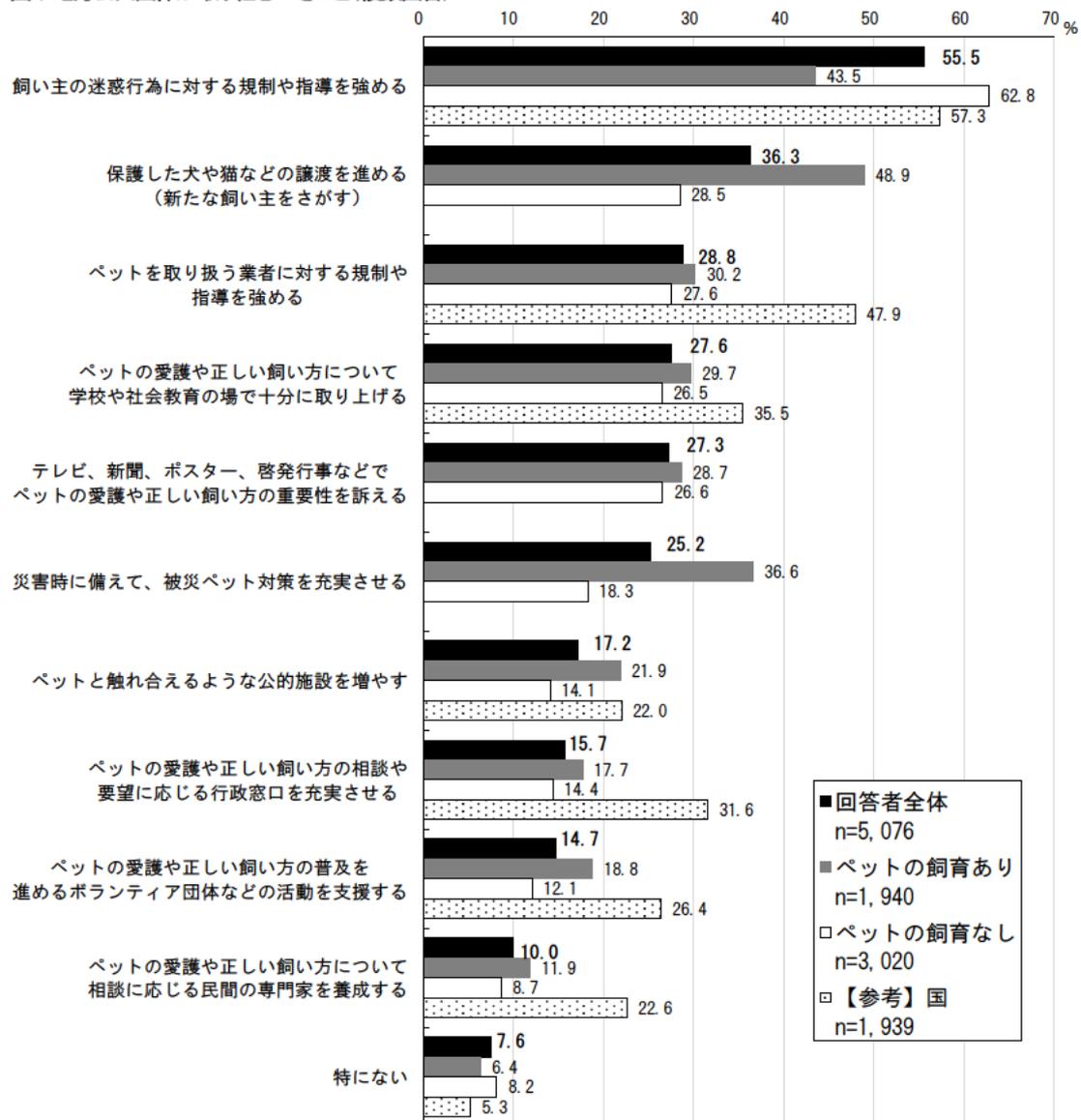
※新規の質問です

国や地方公共団体が取り組むべきことを質問したところ、「飼い主の迷惑行為に対する規制や指導を強める」が 55.5%と最も高く、次いで「保護した犬や猫などの譲渡を進める（新たな飼い主をさがす）」(36.3%)、「ペットを取り扱う業者に対する規制や指導を強める」(28.8%) となっています。

ペットの飼育のあり・なし別で見ると、「飼い主の迷惑行為に対する規制や指導を強める」、「特にない」は、ペットの飼育なしの方が高くなっています。

国が20歳以上の者に対して同様の質問をしているため、国と比べると、三重県の回答者全体は、「特にない」の割合が高くなっています。

図表 26 国や地方公共団体が取り組むべきこと(複数回答)



※ 国調査：内閣府「動物愛護に関する世論調査」(平成22年度)

※「保護した犬や猫などの譲渡を進める(新たな飼い主をさがす)」、「テレビ、新聞、ポスター、啓発行事などでペットの愛護や正しい飼い方の重要性を訴える」、「災害時に備えて、被災ペット対策を充実させる」は国の調査では項目に入っていません。

## その他

第6回みえ県民意識調査の集計結果をまとめた報告書は、4月13日から県ホームページでご覧いただけます。また、平成29年4月下旬に県庁や各県庁舎（地域防災総合事務所、地域活性化局等）に配置する予定です。

[URL](http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/) <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/> （「みえ意識」で検索）

今後、集計結果をもとに戦略企画部において分析を行い、分析結果をレポートにまとめ、公表する予定です。